

2023年度

科目名称	基礎整復学
授業コード	BH157
英語名称	Fundamental reposition by Judo 3
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	戸部 悠紀 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復師を目指すうえで必要となる、上肢の骨・筋・関節・神経についての基礎解剖および脱臼の総論、関節の損傷、治療法（整復法、固定法）について、柔道整復師として整形外科および接骨院での十分な臨床経験のある教員が講義する。脱臼の総論では定義・脱臼の分類・脱臼の一般症状および固有症状・脱臼の整復法のポイント、特に、無麻酔での整復法の利点や整復障害について詳しく講義する。基礎的知識および柔道整復師国家試験水準の知識、臨床に活かせる技術を理解し、講義内容について重要点を要約できる学習力を身につける。
科目に関連する実務経験と授業への活用	各種スポーツの救護活動で実体験した内容や、整形外科・接骨院院長などの実務経験に基づき講義する。（所有資格：柔道整復師）
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している。」のために「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」事を目的とする。 ・柔道整復の専門職者として相応しい知識を学び、人々の健康を考慮しながら自らの考えを構築できるよう学習に努められる。 ・倫理観および柔道整復師としての基礎的な能力を身につけ、臨床に活かせる技術を理解し、講義内容について重要点を要約できる学習力を身につける。
計画・内容	1) 授業ガイダンス（倫理含む）、上肢骨について 上肢の骨格（鎖骨・肩甲骨） 2) 上肢骨について 上肢の骨格（上腕骨・手指骨） 3) 上肢の関節について 上肢の関節（上肢帯） 4) 上肢の関節について 上肢の関節（自由上肢骨） 5) 上肢の筋について 肩甲部～上腕部 6) 上肢の筋について 上腕部～手指部 7) 上肢の神経について 8) 関節損傷の構造・構成組織・定義・鑑別診断について 9) 関節構成組織の損傷について 10) 脱臼の定義について 11) 脱臼の分類について

2023年度

計画・内容	<p>12) 脱臼の症状</p> <p>13) 脱臼の合併症・整復障害について</p> <p>14) 上肢骨・関節・筋についての復習</p> <p>15) 脱臼の総論についての復習</p>
授業の進め方	<p>解剖学的な理解も含めて教科書を中心にプロジェクターやプリント等を利用しながら進め、復習のため授業内に既習範囲の小テストなどを行うこともある。</p> <p>過去の国家試験問題や演習問題を解いて重要点を把握する。</p> <p>講義の内容により最後に講義内容についての授業内レポート(要約)を作成・提出する。</p> <p>対面での講義実施が不可能な場合はzoomにより遠隔にて講義を実施する。</p>
能動的な学びの実施	<p>アクティブ・ラーニングのLite技法を用いて、短期記憶で消させずに長期記憶となるように実践する。</p>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・次回講義内容となる範囲の予習を行い、復習内容と合わせて不明な点をまとめる。 ・教科書、プリント、講義内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること(合計60時間程度)
教科書・参考書	<p>社団法人全国柔道整復学校協会監修・社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学・理論編」発行所・株式会社南江堂(7300+税)</p> <p>社団法人全国柔道整復学校協会監修・岸清、石塚寛編「解剖学 第2版」発行所・医歯薬出版株式会社(7800+税)</p>
成績評価方法と基準	<p>期末試験の成績で評価するが、その他に学習態度(意欲を持って取り組みむ。私語、居眠り、携帯で遊ぶなどは禁止)・授業内レポート等も考慮し総合的に評価する。</p> <p>期末試験：75%</p> <p>レポート・講義への取り組み：25%</p>
課題等に対するフィードバック	<p>学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や配布資料等を行う。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>必修の科目のため必ず履修すること。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる課題で評価する。</p> <p>ZOOMによる講義または課題によるレポートを作成し提出</p> <p>レポート課題(50%)、定期試験(50%)を総合的に評価する。レポート課題の未提出および提出期限を過ぎてからの提出は欠席扱いとする。</p>